史料紹介

「高富草案」

中井信彦論文に使われている史料のうちで、もっとも中心となっているのは「高富草案」である。この史料の性格等については、中井論文の四に記されているので、あえてくりかえすことはしないから、右の該当か所を参照されたい。編集担当者としては、右の中井信彦論文の中心史料を紹介するということと、『三井文庫論叢』第三号に紹介されている「宗寿居士古遺言」と「宗竺遺書」に引続いて、初期家制関係史料として、その全文を紹介することにした。

本史料は中井論文に記されているとおり全九冊で構成されているが、史料の入っている袋の上書を目次がわりに紹介しておきたい。

（袋上書）

清壱　元祖ゟ由緒書并惣領本家筋出生

弐ノ二　取立一家之次第

清弐　後見之者功記ノ次第

清三　内証方式目

清四　一家麁子々相続之次第
一家名苗字之事
家々格式之事

清五　後見之者式法

清六　夫々法度之式目
家納様之次第

清七　服忌ノ次第
精進ノ事

全弐　家々相続之次第
親分頭領之定
一家子孫家業入相続之事
一札証文之下書

なお本史料の掲載にさいしてはできるかぎり原史料に忠実に覆刻するようにつとめた。したがって用語はいうまでもなく宛字、誤字まで、すべてそのまゝにしてある。たとえば「妾」という字は、文意上は明らかに「妻」であるが、そのまゝにしてある。そのほかは変体仮名はできるだけ平仮名に直し、また読み易いように句読点をつけた程度である。

本史料の原稿作成および校合は樋口知代が行ない、島田早苗、松本四郎、田中康雄がこれに協力した。

（表紙）

「改
清壱　元祖ゟ
由緒書
并惣領本家筋出生」

一手前儀子孫何迄も一致家相続被致度元祖宗寿存生ニ願有之候へ共、町人之家一致ニ宜永相続之類世ニ稀成儀、然共神代ゟ無之売買之名ヲ取候上ハ数年相考先祖之為承志ヲ、此度一家末類共ニ永々相続之式目取立候事

一元祖宗寿生勢州松坂之住人、祖父ハ三井越後守一城之為主、次郎右衛門と改是町人之始也

一元祖之父ハ三井則兵衛、母ハ珠宝勢州丹生村永井氏ノ娘也、元祖二歳之時父ニ後レ母珠宝之為養育、此人女ニハ又無類売買ニ名ヲ得、十三ニテ夫ニ嫁、夫ゟ勢州松坂ニ而味噌酒質在々ヲ引請、一分之働ニ而商売誠ニ宜被致ニ付、夫ニ後レ候後不相替繁昌ス、元祖宗寿宜相続全珠宝御影、忌日九日也、末葉之者共難有可存事

一元祖宗寿十四歳之時木綿金子拾両分乗下致、母珠宝下知ニ而始而江戸へ下ル、右拾両之木綿代宗寿二十八歳ニ而居宅被求候節凡拾貫目余ニ相成由、利足之あゆミ早キ事此利ヲ能知時ハ一銭之儀も常費ヲ慎大切ニ可致事

一元祖儀兄浄貞と江戸店ニ一所ニ相勤、十八ニシテ店ヲ請取、其節一切之元金百貫目ニ不足所ヲ二十八迄真ニ気妙之働、依之兄浄貞千五百貫目之身代ニ致、自分はわつか本町弐丁目ニ八百両之屋敷ヲ求、後ハ此屋敷千五百両ニ払、外ニ正金千五百両居宅之普請三拾貫目計、右之身代ニ而母為養育不及是非ニ二十八ゟ勢州松坂ニ居住ス

一元祖二十八ニ而我々母寿讃ヲ迎三十二ニ而子ヲ持、五十ニ余迄外家業なし、在借シ或ハ紀州様上ケ金又ハ江戸宿賃、右之品迄ニ而子共成人之待時窺居被申事

一元祖生付第一正路ニシテ家業之外縦ニも他念なく少もおこり無之、勿論一銭之費ヲ第一機人ヲ見知テ相続ヲ好一腹ニ而数多ノ子ヲ持、七十三ニ而終一生子ノうれいヲ不聞、家業こと〳〵ニ妙得たり

一元祖五十一二ノ時、惣領宗竺十九歳次男八郎右衛門十八才、始而江戸本壱丁目わつか之呉服店宗竺ニ為出、自分は京都室町薬師町ニ宗竺と一所ニ売買之差図厚大成徳世ニ稀也、依之惣領宗竺悉伝ヲ請宜相勤如斯段々子孫繁昌全不余儀、元祖商徳世無類御影と子孫之者とも永々御恩上ケテかそへかたき品々悉ク為知らせ記之者也

一元祖数年心ヲ尽シ呉服一道之妙極テ家督とシ、六十四五ゟ両替之道筋取立新町六角下ル町へ居住ス、両替わしり之儀猶更妙有、依之日々栄乍居所々之差図一ツとして不違、不断美服ヲかさらす内外遊興ヲ慎、諸道具以下金高成物ヲ不好、只売買之事耳子孫之繁昌一道之外ハ一生他念なく志真天利ニ不違成ス程業悉成就ス、只人ニあらす子孫ニ至少ニ而も背候時ハ先祖とかめ天罰之利常ニ能心得テ諸事可慎事

一人上惣而真好時ハ悉成就ス、上戸ハ能酒下戸ハ菓子料理者ハ珍物茶人数寄者ハ録替テ道具学者ハ珍敷書、各好を以集武士町人共ニ人ニ勝、宜望有之族壱番ニ能人ヲ愛、唐土堯ハ我子ヲ捨テ舜へ御代ヲ御譲四百余州之民御恵厚大成徳類無之ニ依テ世界有ン限り之手本トス、古人ノ曰家ノ内ノ材ハ朽身ノ内ノ財ハ不朽、元祖ノ曰金銀ヲ宝ト不為名丹ヲ宝トス則是人也、何れも是一利也、人数多召仕者此志ヲ不存善悪くらき時ハ感陽宮もたまらす、諸事我意不任式法之通

宜順テ其利ヲ正事専要ニ可相心得者也

一元祖宗寿母ハ寿讃中川氏惣領之娘也、母存生之次第内証共式目之序記ス、一腹ニ拾壱人子ヲ持弐人共ニ一生愁ヲ不聞父ハ七十三母ハ六十三ニ而終

一惣領八郎兵衛　てい髪シテ宗竺

一次男八郎右衛門

一三男三郎助

一四男治郎右衛門

一五男宗秀　但シ幼少ゟ他家ヲ継、依之家名松屋名字ハ石井也

一六男源右衛門　但シ四十二ニ而終、戒名宗感ト言

一七女子ちよ　但シ三十ニ而終、戒名寿栄ト言、勢州松坂ノ家譲子細取立之式目記ス

一八男八郎次郎　但シ宗竺子ニ致実子有之ハ次男ニ立可申と元祖差図ニ而請取、依之宗竺子也

一九女子かち　但シ勢州松坂長崎八兵へト言者へ嫁入為致候夫不宜取返ス、子細ハ内証式目ニ記之

一十男助八　但シ八郎右衛門子ニ致実子有之は次男ニ立可申と元祖差図ニ而請取、依之八郎右衛門子也

一十一女子きよ　但シ中川清三郎ニ嫁シみかト言

右之分一腹一生也

宗寿取立之者

一甥則右衛門　但シ七ノ女子ちよト妾、勢州松坂ノ家ヲ譲前ハ手代随一ノ七左衛門ト言者筋目能ほうひニ右ちよト妾処ニ中年ニ而病死ス、其後如此依之則右衛門ハ七左衛門代リ実ハ甥取立之内重キ者也

一小野田治左衛門　但シ六男ノ宗秀子助次郎事也、治左衛門ノ始浄誉ハ宗竺舅宗寿為ニハ母方ノ甥也、両方相続ノ為宗竺八郎右衛門相談之上取立、自然と宗秀共ニ健立之利依之元祖取立ノ内ニ記之

一吉郎右衛門　但シ小野田ノ惣領権左衛門子也、宗寿為ニハ権左衛門ハ甥也、吉郎右衛門ハ母方之又甥也、此家不如意数多子有宗寿すくいノため宗秀娘ト妾大坂ニ差置、是も宗竺并八郎右衛門相談ニ而割ノ内ニ入、然は宗寿取立共極テ難計也

勤方之次第

一宗竺若名長四郎元服シテ八郎右衛門後ハ元祖之俗名八郎兵衛と改、八郎右衛門ノ始ハ宗竺事也

一宗竺十五ノ春伯父江戸本町四丁目ノ店へ下り十七迄手代同前ニ相勤、十八ニ而京都室町伯父店ニ而江戸仕入方ヲ相勤ム、是ゟ末々一家之子共十四十五ヲ限一先江戸へ下ス事自然と家法之吉例也

一宗竺拾九歳ニ而江戸本町壱丁目ニ間口九尺奥行拾間之呉服店ヲ出シ、次男八郎右衛門ニ手代子共下男迄ニ都合拾人ニ不足人数ニ而取立之、自分ハ京都ニ而買方ヲ勤也

一宗竺京都仕入店室町薬師町ニ間口八尺ノ借家上下六七人ニ而昼夜無油断真宜相勤ニ付日追而繁昌ス、江戸始而出ス九尺之店ハ只今之駿河町ノ本店事也、京都八尺之仕入店ハ只今之冷泉町之店也

一其時店一切之元金宗竺江戸京伯父店ニ相勤候内、元祖所持之江戸本町弐丁目之宿代凡壱ケ年ニ百五拾両上ルヲ両年三百両宗竺元手ニ致、又次男ハ元祖任吉例金子拾五両木綿代乗下ニ而遣ス、弐口之金五六年伯父店へ預ケ置凡四拾貫目

外ニ六拾貫目宗寿ゟ請取都合百〆目是家業之始也

一宗竺元来身持能細か成生、二十四五迄店ニ而買方勤候内衣服木綿家内入用壱ケ年ニ三貫目ニ不過諸事丁寧ニ有之ニ付、売方之商人金貸シ之者迄慥存年不応末頼母敷者と世上共ニ言、古人如教十目之視所全不違如此栄也

一宗竺買方致候時分僅之元手ニ而年々大分之買物、依之両際三四百貫目程宛払有之候、只今之三千貫目ニハ増ル、有増借リ金計ニ而仕入方致ニ付京中ともニ世ノ常慥不存候へ而ハ此節ハ中々手廻シ難成所一際も無相違先々ゟ金銀之持掛ケ取替申ニ付買方別而宜日追而繁昌、是全宗竺人柄宜徳と記之者也

一江戸店日追而繁昌、依之江戸京同商売輩就中江戸店持候者猜深一身同党致江戸たゝすミも難成、家持迄申合己商売も難成拾ケ年余及難儀此節大躰之儀ニ而候ハヽ中々相続成間敷処、前記通全躰宗竺人柄宜同商売之外ハ誉宜申ニ付、大根之仕入方曽而不違一族家来共ニ不背下知宜相守ニ付倍繁昌也

一宗竺廿五ニ而妾ヲ迎誠売買之冥加相叶家業ニ付数年難儀上々迄も通シ、三十六之年牧野備後守様へ始而御召難有御意御威光を以大御老中様方不残一時之内ニ御逢被為成、御ほうひ之御意結構至極、其後御公儀御呉服所ニ被為仰付此節八郎兵衛と改候也、依之年来猜さまたけ申同商売之族不残存念ヲ相止、江戸京国々迄商売人之手本ト成、是偏其道之真深天利ニ相叶たると可知之也

一宗竺ハ第一知恵深物事細かにシテ内場成生付万苦なし、家業之儀猶更能錠錬人ノ善悪能見知常ハ隠シテ不見得、見分大様ニして諸事我意ニ不任宜順、依之一家一族共ニ敬、難ハ本細か成ニ付少気質品ニゟせはき所有、今壱つハ大様成故事ニゟ油断順ス、二ツ外無難全躰宜第一一分之徳有性也

一宗竺御用被仰付候以来角年之江戸詰十三四年首尾能相勤外ニ御為替御用迄承家督トシ、四十九才ニ而首尾能願相叶京都ニ隠居ス、前ヲ不存者今日豊成躰計見候時ハ雲泥之相違、人ニ勝立身スル者之手本前後弁テ可知之者也

一八郎右衛門若名長五郎元服シテ治郎右衛門改、又宗竺御用被仰付候節元祖之差図ヲ以八郎右衛門と改、本店ノ名代ヲ請取也

一八郎右衛門十五ノ春江戸本四丁目伯父浄貞店へ下り十八ノ春迄手代同前ニ相勤、同年之秋本町壱丁目ニ兄宗竺店ヲ出ス、十八歳ニして上下拾人ニ不足人数右之店ヲ請取三十六ノ夏迄弐十二年之間常江戸、其内五三年ニ一度休足用事ヲ兼京伊勢共ニ百日余逗留ス、其外ハ常詰ニ相勤候、於自分全功なし、親宗寿兄宗竺下知年来不違相勤ニ付店々繁昌何れも親兄之冥加と可知之也

一八郎右衛門二十七ニ而妾ヲ迎、三十六ゟ病者ト成同三十七八之頃ハ存命不定之仕合、其節ハ両親ヲ持不孝愁之始自分ニ子なし、一ツニハ又如此繁昌永家相続之仕方兄宗竺助ニも相成度此等之心底多年一筋ニ有之ニ付三十六ゟ今年五十四才迄凡十七八年之間飲食色欲ヲ慎保用之仕方西三伯医療ヲ見習自然と命ヲたもち四十九才五十三才両度江戸へ下り年来之心掛ケ成就シ、又兄宗竺心ニも相叶申段是偏保用全あやまらす宜故也、末々為病身者ハ心得ニも為致度記之者也

一八郎右衛門儀知恵諸事共ニ人ニハおとり、乍去親兄之下知年来不背家業ヲ一筋之心掛其外身之保用三ツ之外ハ更ニ徳なし、ひいきニ勝性依之変ニ順シテ他之恨ヲ受事有、自然と苦有一分之損持用ニハ不好也

一宗竺曰八郎右衛門儀数年江戸詰之内駿河町店ニ而現金売ヲ始、其後両替店并綿木綿店其外江戸店不残取立治郎右衛門名代ノ始江戸店々之中興トス、自分心ニ相叶故隠居以来諸事八郎右衛門へ任下知為致候処、人ヲ能見知テ夫々ニ下知ヲ成ス故江戸京大坂所々不残一致気服致日追而繁昌、家内ニ悪人不出来大家納候事全八郎右衛門下知宜故也、家対シ大忠之者たるニ依テ子孫ニ為知らせ宗竺記之者也

一三郎助若名山三郎、十五歳ニ而江戸本町一丁目伯父浄貞店へ下り一両年相勤、病身ゆへ二十三四迄勢州松坂ニ休足ス、二十六七ゟ快気ヲ得、三十ニシテ妾迎京室町薬師町ニ居住シテ三十八九才迄凡十ケ年之間仕入方ヲ昼夜心掛ケは

まり宜相勤ニ付、諸事錠錬シテ自然と買方宜相成候事

一元祖死後三郎助三十九歳ゟ新町ニ居宅シテ両替店ヲ請取、其節迄ハ不宜手代も出来家聢と不納候処ニ此者諸事丁寧ニ心掛宜相勤候ニ付、第一ニ家能納り商売之道筋広相成日追而繁昌、依之京都両替店之中興トス

一三郎助ハ第一ニ心広正直ニして家業之はまり見分之外ニ宜、依之支配方之人ヲ能相続ス、正路成故宗竺并八郎右衛門迄上タル者之下知ヲ不背冥加宜数多子ヲ持、難ハ一分請取之外ハ物事有増シテ諸事ニ不委細品ニゟ外ゟ之さまたけ油断ニ可順也、外難なし、情へんノ唱宜一分ハ徳也、善悪我知テ可弁之也

一治郎右衛門若名四郎次郎元服シテ源右衛門、十四才ニシテ京都宗竺方ニ暫買方ヲ見習、十六ニ而江戸へ下り、本町店ニ而諸事八郎右衛門任下知宜相勤、二十六七ゟ八郎右衛門ゟ両替店ヲ受取次郎右衛門と改、二十九才ニ而妾ヲ迎四十五六迄凡三十年之間無難無異相勤、二三年ニ一度宛暫之逗留にて京都ニ休足ス、外ハ江戸常詰相勤候事

一両替店次郎右衛門請取候迄ハ為差家督も無之処、物事宜相勤ニ付町屋敷共ニ広ク相成、第一御為替御用治郎右衛門働を以被為仰付金わしり之大根と成、大切成家督偏此者之働不過之江戸両替店之中興トス、少病身故四十六ニ而妾子引越京都ニ居住ス

一治郎右衛門第一人柄能年来無事ニして丁寧也、家業之はまり無油断公儀勤方外情へん之品能、難ハ気質せはき所有、是ゟシテ物事うたかひ有、家内之仕置ニも急度過事有、外難なし、一分之知テ可弁之家対シテ忠功之者と可知也

一宗秀儀若名五郎八、十六ニして他へ名跡ニ遣ス、其後松屋伊兵衛と改、大根無知恵全躰不行跡者、依之養父跡ヲも潰実父方へも及数度大分損掛、終不行跡不止数年勘当致処、元祖死後二三年前石川主殿殿為御名代家老之伊織并佐治善左衛門両人侘同名浄貞并道悦右取持を以八郎右衛門迄色々侘、段々之証文之取無余儀勘当被免勢州へ遣ス、終悪事無止事就中宗寿死後専畳ス、母寿讃殊之外立腹一生勘当墓之前へも寄せ申間敷と憤言被致候程之悪人、然上ハ一家猶又

出入留可申処、家段々繁昌、依之兄宗竺慈非を以伏見ニ差置、一家へ出入無相違心易差置事全宗竺之慈非也、為人者之風上ニも置申者ニ而無之候、子孫為知らせ又ハ宗竺慈非深キ所知之者也

一源右衛門儀若名佐吉元服シテ勘右衛門、十六ニ而江戸本町之店へ下り、八郎右衛門下知ニ而六七年ハ随分宜相勤一家調法ニも可成処、廿四五ニ而退屈勤油断ニ成依之勢州ニ久々差置、廿七八ゟ京都ニ差置三十年来ニ而妾ヲ持、宗寿手はなしなく六角ニ被差置、死後以来三郎助宅へ移十年余室町買方ヲ相勤、二三年は無事ニ勤候へ共其後は行儀不宜病者と成四十二ニ而終、本ハ実性ニ候へ共身持不宜命失末々若年之者為可有覚悟記之也

一源右衛門売売ニさとく器量人ニ勝たる者差当所々知恵働共ニ随分利発、依之情へんハ勝テ上手也、大根上手ニ勝実儀不十分しまり共ニ同前、宜者引〻使候ハヽ一器量各別ニ宜可相成処、此者ニ打任捨置候ニ付万共ニ違、第一一分ノ不仕合思ハ惜キ者也

一八郎次郎若名庄次郎元服シテ勘右衛門、十四五迄京都ニ罷有、夫ゟ江戸駿河町呉服店へ廿八九迄治郎右衛門下知ニ而諸事宜相勤也

一八郎次郎二十九ニ而妾ヲ迎、宗竺ゟ御用筋之役儀請取今年迄首尾能相勤近年迄之御用内外仕方不十分、依之年々大分損失有之候処、八郎次郎近年相考八郎右衛門と相談之上内外仕方宜法ヲ立替、依之年々余程之御影相残様ニ罷成候年々損失却而徳ニ相成事天地之違、永々迄之無限徳全八郎次郎志依成就ス也

一八郎次郎下地ゟ宜相勤候へとも未年若物事ニ抜も有之候処、段々心掛宜就中一両年ハ江戸表一切之家業悉其利ヲ錠錬ス、商ハ第一人ヲ見知テ夫々ニ下知ヲ致事此利共ニ得心致三十五ゟハ江戸一切之大根と成、右之志を以下知利ニ不違ニ付、大勢之家来気服致一致相働日追而繁昌、第一家調未年来中年ニも不成して本筋ニ元付事稀成器量家之繁昌と可知也

一八郎次郎実性ニして心広気質正路善悪ヲ相弁テ変ノ心なし、第一ニをとなしく頼母敷者也、難ハ息災成故煩事ヲ不

知、自然と養生おろかに成此利ヲ弁テ心入ニすへし也

一助八儀若名源三郎元服シテ九郎右衛門と改、十五ニ而京都室町ニ暫罷在、其後二十二三迄六七年ノ間江戸本店ニ勤、諸事次郎右衛門差図ニ而無難も無事ニ相勤、大根病身其上修行之間も無之聢と勤候程之役儀も不仕候、廿五ニ而妾迎勢州松坂八郎右衛門宅ヲ請取三十余迄勢州ニ居住ス、其身志ハ有之候へ共修行之間も無之、何之家業も不功、依之兄弟共ゟ役儀も不申付差置候ヲうすかれ候と存、近年述懐両方相違聢と無之処、三十一ゟ物事宜三十二ニ而江戸へ下り治郎右衛門跡役ヲ請取無相違無異ニ相勤候、病気さへ不出候ハヽ段々ニ宜相成可申者也

一元来之気質正路ニ変屈、第一せはく夫故滞事有、我善悪ヲ弁テ可改之、外難なし

（表紙）

「弐ノ二　取立一家之次第
清二　後見之者功記ノ次第」

取立一家之次第

一則右衛門儀元祖兄桜井宗誉子也、実ハ家筋父方ノ甥、宗誉宗寿不睦手前繁昌ニ付引取妹みねと妾、依之後ハ兄弟むまく成第一兄孝養也、みね始ハ手代随一ノ七左衛門家へ対シ忠孝第一筋目能者一端是ニ妾中年ニ而終、夫ゟ如此、則右衛門ニ松坂本宅譲勢州表役儀為相勤候ニ付勢州向首尾能不残之兄弟京都へ居住致安キ事、然は則右衛門儀ハ七左衛門代り実ハ父方之甥取立之内重キ者也

一治左衛門儀実ハ宗秀子我々甥又先ノ次左衛門筋違ノいとこ宗竺内儀ノ兄、二十年以前勝手不宜此節八郎右衛門気ヲ付手前ゟ弐十〆目小野田六兵へと申者次左衛門ノ取立手代此者廿〆目二口合四十〆目先年合力ス、治左衛門一器量有之

其後手広商売致候得共大根しまり無甲非、七八年以前ニ工面悪敷成京江戸買掛り為替金一家貸り金凡千〆目手前江戸京ニ而五百貫目都合千五百貫目之貸り高ノ処ニ三百〆目ニ不過代物手前ヲ外ニシテ三歩之割ニも不相成、又右大分之損ノ致上末々迄宗竺苦労一ツニハ甥ヲ取立彼是を加、次左衛門店ヲ手前へ引取、甥助次郎ヲ小野田治左衛門と改店ノ名代ヲ預ケ置候事、小野田之名目ヲ立候、是又手前割ノ中へ入一家ニ取立候儀甥ノ筋目を以□□也、以来ハ店之名代時之宜ニ付替申筈末々ニ至違乱為無之記之者也

一吉郎右衛門儀実父ハ小野田権左衛門小野田之惣領也、宗寿為ニハ母方甥ノ子、手前儀勢州両家之裏屋敷ニ付甥仲斎と申者伯父ニ対シ色々非道ヲ取立出入ニ相成、凡十三年以来及難儀度々伊勢公儀ニ相成、手前も遠慮之難儀其身非道難遁度々平門ノ上籠舎迄致終身代減脚ニ及、此節兄宗誉ヲ限一家不残仲斎方ニ而手前へハ不和、然所ニ権左衛門ハ宗竺舅分正路成人故無別儀折節身代衰数多ノ子難儀、依之宗寿すくいノ為ニ孫娘と妾大坂ニ十ケ年程差遣ス、取立之因縁是也

一向後一家亀子之内取立候節其者之功徳儀之次第其時之品委細ニ此奥ニ記善悪上中下之印割之定別紙ニ有之通可申渡事

一手前一家及末々ニ時は兄弟之内或ハ縁ニ引レゑこうひいき有之物ニ候、世ノ常に家之法式如鏡筋目不正シテハ永ク難続、又各儀大切成割ニ入取立候儀勿論忠功之徳第一ハ此道筋兄弟之内非道申族有之候共、無異儀筋目を以宜相続此儀為専要、依之末々ノ者おろそかに不存為年来之忠功夫々書付委細記之者也

一藤右衛門儀子共立京都ニ而勤、夫ゟ本町之店ニ而及十ケ年相勤駿河町店支配人之始、数年難なく無事相勤日追而繁昌店支配ノ開山、依之取立者也

一庄右衛門儀子共立藤右衛門跡役請取相勤内、牧野備後守様御発光之時節御屋敷役人中自然と見強ク中々難勤処首尾能相勤、殊殿様迄御目見へ被仰付候、手前家へ対シ氏神と貴申付、依之取立者也

一新兵衛儀大坂表始ハ善右衛門ニ十右衛門差添六七年之内相勤候処、御用筋之品両替店呉服店共ニ不宜候処、新兵衛ニ申付候以来御用筋各別ニ主人同前ニ御公儀前勤成シ、第一家之威光日追而両替店繁昌呉服店共ニ宜、家内ニ無悪人家能納り手代一致ニあかまへ申事全躰宜徳也、依之取立大坂之中興トスル者也

一藤兵衛儀子共立元ハ江戸本店ニ数年相勤始而綿店出候節仕入方ヲ勤、其後綿店之支配数年首尾能相勤、又木綿店ヲ新規取立支配宜下知致ニ付日追而繁昌木綿店之開山トス、実躰ニ而万我意不任物事遊有之能家臣勝タル忠功、依之取立也

一善兵衛儀子共立数年本店ニ而宜相勤、其後藤兵へ跡綿店ヲ請取未不十分所ヲ昼夜心掛宜たるミなく下知致ニ付、第一家能納日々栄テ終江戸壱番之綿店ニ成、全躰此者之働大忠功、依之取立綿店之中興ト可知之也

一善次郎儀子共立前ハ京都ニ数年相勤有増仕入方も錠錬ス、其後江戸へ下り段々宜相勤候付江戸年数無之内ニ支配迄相勤、又宗助儀子共立京都ニ数年相勤若年ゟ器量人勝各別ニ相勤ニ付年数ニ不応大役相勤、其後京都支配ヲ請取、其節ハ商高四千〆目之内外江戸之物入年々多現金第一之店ニ年々大分掛ケ銀出来佐法も猥ニ成ニより年々悪人不絶出来末々無覚束処、善次郎請取候以来江戸内外改如鏡宜家法取立下知ヲ成スニゟ、店第一ニ納り一銭之掛銀も曽而不生日々栄、又京買方も惣助改不申候内は江戸同前ニ物事不宜然所ヲ多年相考仕入方諸色悉気妙ニ宜仕方ヲ取立尚更家内明ニ下知ヲ成ス、就中四五年以来ゟ善次郎惣助一致ニ申合両方之仕置一切迄又々去年江戸ニ而立合悉相改類も無之店ニ相続ス、商高七千ニ余成利廻り之儀ハ物事昔ゟ下直ニ売出し候へ而も大根各別ニ合申様ニ宜相成、両様三百人ノ家来一致ニ相働気服致事全両人之働分ケ而難知セ一所ニ記之取立者也、善次郎ハ江戸店之中興宗助ハ京店之中興、就中大功記之者也

一治兵衛儀京都両替店ニ子共立ゟ数年宜相勤、先年元祖之取立伊右衛門と申手代大悪人大分引負致両替店ハ不及申手前家業之仿ニも相成可申程之及難儀、其節治兵へハ未若輩たり、然共年不応実躰ニ事正相勤故当分店々しがも見へす、猶又支配申付候以来段々と家内正下知成ス故第一ニ家能納金銀之掛引ニ妙ヲ得相勤ニ付、年々大分ニ利分家督ニ相成

候、又江戸両替店去々年迄ハ**絡**々ニ而互之ぎしミ合ニ而大分内損有之候、殊近年江戸両替之商金銀之売買止其外借シ貸りともニ石ニテ手ヲ詰候ことく不自由ニ相成、其通ニ差置候ハヽ店あやうかるへき時節、彼是ヲ相合シテ去年江戸へ下り達而仲兵へへ申含メ江戸京一致ニ仕候、依之両様之勝手日々宜是偏治兵へ家業之はまり宜故也、依之取立京両替店中興ト可知也

（表紙）

「改

清三　内証方式目」

内証式法ノ事

一元祖寿讃江戸出生中川氏惣領之娘也、十才ニたらすして母貞寿ニ後レ十三ニ而上方へ登、寿讃相続全祖父浄安影也

内証式目ノ事

一手前儀子孫いつまても一致ニ家相続被致度存生之願

内証式目之事

一一家いつ迄も只今迄ニ不相替一致ニ相続之利相考此度取立一々ニ家法相定候、末々一家之内も縁ニ引レ濃薄キ差別有之ニ付世ノ常不正時ハ自然とゑこう出相続難成候、自今ハ惣領家本家筋之内ゟ上下不構筋目正家相続之利ニ相叶たる者を**撰**テ大根可為、又後見之者共取立候儀も善悪共ニゑこうなく宜ヲ**撰**、其後ハ家々頭取と右後見之者共と一家ヲ納家法也、如此不違時ハ上無働とても家々ニ無障繁昌之利也、多ハ我ヲ立身損却而一家迄之妨善悪為知らセ記之也

一元祖寿讃中川氏惣領之娘也、江戸出生十才ニたらすして母貞寿に後レ、十三ニ而上方へ登、寿讃相続全祖父浄安影也

一寿讃儀中川繁昌時節依之随分豊ニそたち曽而不自由も不被存候処十五ニシテ宗寿ニ嫁、三十迄ニ五六人之子ヲ持宗寿元来こまか成人舅女珠宝勝テこまかニ六ケ敷人、及十人子出生迄一切珠宝差図ヲ請宜被致之ニ付、嫁随一ニ珠宝心ニも相叶死後迄満足被致候事

一寿讃子六七人迄ハ下女弐人やといノ物縫迄ニ而腰元なし、縫針一切有増自分ニ被致候事

一寿讃朝夕之料理并宗寿髪さかやきまて有増自分ニ被致候事

一寿讃年々多子共出生おのつから家内入用ニ付珠宝宗寿日々こまかに被申ニ付子共衣類絹類之小袖壱つ染帷子壱つノ外は木綿、増而自分ニ衣類新敷被致候儀年ニ壱つも稀成事

一子共衣類年壱つニ而ハ難足り、又差図之外ハ不相成、殊娘出生之後ハ何角と衣類之儀ニ付心遣、自分之内ヲも夫々ニ着せ被申ニ付表向曽而見苦敷事無之、様々之心遣上ケてかそへへからさる事

一寿讃婚礼之節ハ中川繁昌ニ付其節ニハ勝レテ衣服手道具共ニ宜有之由、然共大勢之子共ニときくつし、其上自分ニハ新敷被致候事も稀ニ候へハ後ハ曽而衣類も有間敷所ニ浄安ゟ仕付被申候時之小袖諸道具共ニ有増損シなく大分ニ所持被致娘共夫々ニ取らせ被申候、誠不思儀成仕方能々此儀考心入ニ可被致事

一寿讃儀前記通諸事こまかニ心遣有之候へハ外々之人口ニも掛ケ可申処、勝テ仕方宜壱つもきうくつ成儀無之程能仕方、依之内外出入之者共一生悦申儀誠気妙成仕方心得可有之事

一寿讃三十余迄狂言尽之類其外遊山かましき儀一切無之、年寄候而娘又は外之者慰可申ため無是非被参候儀は各別、是共ニ三十ゟ内ハ曽而無之と承候事

一寿讃常々神仏共ニ信心深、乍去家内ニ而月待日待遊山かましき仕方ニ而被致候事四十迄ハ曽而無之事

一五十ニ及迄不断台所ニ而内外共ニ夫々心遣被致候、不断夜具木綿常々衣類若キ時ゟ心安キ無地類、曽而美類ヲかさり申事好不被申候事

一世上之母ハ子之内諸事おとりたる者ヲ不便かり候事惣而世ノ常也、寿讃儀は生付片綸或ハ無難知恵おろか又は病者是等之者は随分不便ヲ加、少ニても志不宜家業ニ心掛悪敷子ハかりにも心ニ不叶、只家業宜相勤子ノ分随分とれんみんふかく、依之出入之者迄能相勤候者ハ一分ハ不申及親々まて夫々ニ心ヲ付、此一筋之正キ事又女ニハ稀成人、末々為知メ悉記之也

一おかち儀十五ニ而勢州松坂長崎八兵衛と申者ニ稼、廿七迄ニ男女弐人之子ヲ持、夫不宜年々家衰ニ付数度いさめ候へ共一切家業ニ趣なし、依之廿七才ニ而縁ヲ限惣領之娘ヲ連親元ニ帰、今年三十五ニ成迄娘相続之志深キニ依テ何方へも不参、只娘相続之事耳宜明メテ数年行儀正相勤ニ付、惣領宗竺自然とれんみん、依之娘しうヲ一子元之助ニ妾ス、かち長崎方ニ居候ハヽ何とて娘ケ程ニ立身不存寄事、男女共ニ志之一筋宜時ハ自然と冥加ニ相叶如此繁昌眼前也、人々乍存我身ニ至曽而わきまへ難成もの故、志之一筋末々為知らせ記之者也

一元祖宗寿寿讃夫婦共ニ世ノ常ニ而ハ中々日本一ノ福人とは難成、人ニ勝たる徳有之と可知、夫ハ家業ヲ能シテ外也、女ハ内ヲ守テ家ヲ能ス、一切之悪事女ノ心ゟ生シテ家々之亡事不珍、先祖之仕方常能悉相考テ多年難有慎可申事

一手前儀向後惣領家并本家筋已上七軒徳儀次第親分ニ相成申筈、其妾ハ母同前、有増ハ順能可致筈、然共下増テ上おとり候時ハ大家之仕置難調、依之別紙ニ其子細立置候付、其節ハ本家筋七軒并取立三軒其外後見之者共相談之上ニ而相究筈ニ候条、其節一言違乱有間敷事

一惣領家本家限家督相続之者無之家ハ、夫々ニ継かせ申式法別紙ニ立置候、此儀尚更背申間敷事

一子共十三ゟ始而家業入、其外四十年来迄之勤方是又別紙ニ立置候事

一代々之親分子共之内心ニ入かねたるもの有之候共、悪事之外ハ実母ノことく夫ノ手前取成、むつましく相成候様ニ可致事

一一家之子共法度之定目立置候、若一ケ条ニ而も相背族於有之ハ、或ハ若隠居又ハ引屈夫々仕置式法之通可致候条、一切親之差かまい申間敷候事

一為家業之江戸京大坂何方ニ何年差置候共相談次第尚更かまい申間敷事

一所々手代登り候節京都支配方之店ゟ支配人召連為目見へ参筈ニ候、何様之隙入有之候共無用躰逢候而年数其外勤柄之品迄承、夫々程能満足為致可申事

一所々手代逗留之内京都支配方へ聞合振舞之仕方帰候節ハ餞別夫々応シ程能心ヲ付可申事

一手前儀ハいつ迄も兄弟之通物事ニへたてなく一致ニいたし候故内証共も同前、随分只今迄ニ不相替相互ニむつましく可被致候、世ノ常ニ心得候へ而ハ末々一家之内ニ縁ニゟ濃薄キ之差別有之ニ付、物事縁ニ引レテゑこうひいき有之物、夫ゟ乱ノ始りと諸事ヲ恐テ互ニ家ヲ大切ニ存、此心掛ケ可為専要也、若妾方之内不宜族有之候とも年重サゟおとなしく事ヲ納候へハ自然と宜相成物ニ候条、此旨第一心得可被申事

一一家之内時之親分一族之頭たるニより自然と威光も強、分ケ而女ハ先知恵成者故時々威ヲかりて外ヲあなとる事有り、此節は尚更謙一分は不及申夫其志有ハいさめ候程に此心掛ケ為専要、一国之守護ハ一国之父母と言惣而親ハへたてなく慈非厚大成所ヲさして親トス、此志違時ハ万成就スル事なし

一芝居見物同しくハ無用、乍去品ニも可寄ル、其外人立多キ所へ何方ニよらす目立候様ニ一切出申間敷事

一芝居役者何方へも一切呼申間敷事

一先祖ゟ由緒有之久々出入之家来我か心ニ不叶とて差而悪敷儀も無之ニ出入止候族、又ハ筋目もなき昨今ノ者当分心ニ

相叶候とて心安出入多クハ用捨可致事

一一家子共へ之挨拶夫々夫ゟ申渡通相心得可申事

一後見之者之妾礼式請候挨拶之事此度相改候条、其通ニ人々被相心得召吏へも可被申渡事

一内証共親元若不如意之方有之候共、一分之夫計ヲ頼私ニ無之様ニ人々たしなミ可被申事

一一家段々繁昌ニ付我不知物事結講ニ成、おこるともなく自然とおこりニ畳ス、代々前ヲ考テ一家申合諸事音信取引軽ク高上かましく不成様に心得可申事、国々ニハ永繁昌致者も有之候、其日自然と土地ニおこりなく物ニ移事無之故永続、江戸京大坂三ツハ日本第一、殊ニ京ハ其内之随一都たるニゟ色々ニ諸色物数寄家屋敷諸道具并女衣服結講ニ無限所、依之悉おこり畳シテ心高振人かすめ身持ニ位付夫ゟ家業おろそかに成、三代五代ヲ限永続たるためし無之、人々口くせ之様に不断唱候へ共、自分ニ此わきまへ深キ者無之候、扨々都ハ日本第一おそろしき国、永繁昌之志有之者ハ不面目、能々人々謙テ年々志諸事内外之しまつ改テ相守可申事

一手前家来ノ妾只今迄ハ惣而無差別同前たるニゟ此度相改候事

一後見之者之妾ハ取次ニ不及、奥へ通り候へ而見合逢申様ニ可致事

一盆正月ノ礼日外トハ違相勤候様ニ為致可申事

一五節句之礼是ハ免シ其代り常ニ勤させ可申事

一腰元共ゟハ成程慇懃挨拶為致可申事

一後見之妾ゟハ心安挨拶致させ可申事

一手前一家夫ニ付聊之儀迄しつと無之様ニたしなミ可申候、乍去夫之身持崩レ家ノ害ニ可成儀ヲ其儘ニ差置候事是又不実也、勿論数多之一家後見之者互ニ油断ハ無之候へ共、一分之儀妾程はいさゐニ不存候へハ油断之族も可有之候条、

其節ハ一家之内おとなしき者又ハ後見之者共へ委細申通一分ハ豊ニ致居可申事

一惣領家ハ三男迄ハ同名、四男ヲ限中井と改可申事、其分レ何れも惣領計

一本家六軒次男迄、三男ゟ右同断也

一取立同名惣領計、次男ゟ右同断也

一後見之家向後永井と改候、是も惣領計、次男ゟハ本苗ヲ名乗可申事

一惣領家本家都合七軒主人也

一取立之同名一家也

一亀子之同名同前也

一本家筋中井ノ始一代ハ一家也

一右三方ヲ諸事**格**式同前也

各本家筋七軒へ対スル時ハ若輩たりとも親方同前と心得可申事、代違之内徳儀勝たる者有之ハ伯父同前ノ**格**ニ時之親分申渡筈ニ候、其外ハ**格**式右之通相心得可申事

一二代目之中井、取立之中井之始、末之中井無差別同前也、前三方へハ挨拶同前、其内少慇懃ニ致出座之節下座、又右之中井ゟ本家七軒へハ主人同前ニ敬可申事、七軒ゟハ一家之分レ迄ニ而外ハ心安挨拶可致事、何れも永井と出座挨拶等**格**式同前也、依之妾方も同前ニ相心得可申事

一向後永井妾礼儀七軒之外ハ自分之礼無用、吏ニ而礼可致事、然共一年ニ一度ハ勝手次第見舞可申候、其節三方之挨拶同間へ入、殿付ニ為致可申候、家来ハ何れも様付ニ可申渡事

一一家寄合之時節同座敷下座ニ而挨拶、又ハ振舞等之時節共ニ**格**式相心得可申事

一各妾方夫之死後家ノ仕置ニ差閊、其外一家之出合中悪敷家法ニ背候時ハ、家へ対シ大悪人たる故夫存生ならは剛別之筈、依之其子共ニ不構時之親分家之頭領後見共相談之上ニ而引屈為致候様ニ仕家法、此段急度相心得可申事

一永井始本家七軒之妾へハ奥と唱、其外何れも名ヲ唱申様に下々へ可申渡事

一取立其外三方中井、此分家内ニ而奥と唱候儀ハ勝手次第、外ニ而ハ名ヲ唱申筈ニ候条、此旨相心得可申事

（表紙）

「　一家麁子々相続之次第
清四　一家名苗字之事
家々**格**式之事　」

一家麁子々相続之次第

一此度相究候所々店々之元金并家屋敷宿代三年勘定之上、延金銘々之割を以一分ニ請取、是を以麁子々之元手と可致事

一惣領家并本家筋六軒向後麁子壱人出生之時ハ、男子ならは銀高拾貫目ゟ三十貫目迄三十年之間両替店へ月八ノ利足ニ而預ケ、退ケ物ニ致置可申事

一女子ハ三貫目ゟ七貫目迄同前ニ致、十五才迄預ケ可申事

一取立之家男子ハ拾貫目迄女子ハ弐三〆目迄右同前ニ心得可申事

一後見之者ハ男子ハ五貫目女子ハ弐〆目迄右同前ニ心得可申事

一麁子々之儀銘々之延金之内ニ而致ニ付、人々心入次第金高差図如何と被存族も可有之候へ共、子孫ヲ健立之儀は各別と存利合も宜相極候、多延候分不残請取候事家為ニ不宜、外ニ左様之預り之利定置候、又家ニ不応過分之儀も不都合

ニ存有増切符記之者也

次第

一元五貫目物ハ　凡八拾八貫目ニ成

一元拾貫目物ハ　凡弐百貫目ニ成

一元弐拾〆目物ハ　凡四百貫目ニ成

一元三拾貫目物ハ　凡五百弐十〆目ニ成

右は月八ノ利三拾年ニ有増如斯也

次第

一元壱〆五百目物ハ　凡六貫三百目成

一元三貫目物ハ　凡拾弐〆目ニ成

一元六貫目物ハ　凡弐拾五〆目ニ成

右月八ノ利十五年ニ有増如斯也

一末々此通発始ニ覚悟致候時は、子孫相続之儀少も屈度無之候、世ノ人前ヲ不存差当儀計不覚悟依之末ハ及難儀記之者也

一子孫之元金三百貫目迄相続之内ハ右之利足親方請取候後ハ家々**格**式之通之利足ニ相心得可申事、并後見之者是又可為同前事

一麁子々後見之子共元金ふへ候ハヽ三歩一江戸大坂宜宿賃取之、家相求させ可申候事

一麁子々中井永井共ニ江戸京大坂にて呉服絹布綿木綿之店出シ売買之儀、家之さまたげニ候条、急度法度ニ相定候、末々其旨相心得可申事

一右三ケ国之内たゞ共或ハ遠所害ニ不成品有之候ハヽ、本家取立後見悉合点之上ハ可為各別事
一遠国之儀は何れ之商売共心次第ニ可致事
一質両替其外家ニ無之売買之儀は、京大坂江戸何方共ニ不苦候事
一質商売之儀は各別外商売之儀ニ候ハヽ、元金三歩一或ハ半分ヲ限其外ハ相渡シ申間敷事
一商売之儀何方分ケ而遠所ニ候ハヽ一分ニ取立候儀有増ハ無用、或ハ弐人三人組合ニ而致候時損失諸事ともニ宜儀有之候、一族之内同気之類組合ニ而取立、二色相続之上ハ三口ツヽ、分ケ而家督ニ致候様ニ心得候へハ、物事慥ニ有之候事
一右ケ条ハ中井永井共ニ同前たるニゟ一致記之者也
一中井永井共ニ買置売置相場商并不応大名借シ一切致申間敷事

一家并取立之家後見之家段々広相成故末々亀子々ニ至紛不申様ニ此度名苗字相改諸事**格**式相定候事
一惣領家三男迄ハ三井越後屋同名ヲ名乗らせ可申事、其分レハ惣領計
一本家六軒次男迄ハ三井越後屋同名名乗らせ可申事、其分レ右同断
一取立之同名ハ惣領計三井越後や名乗らせ可申事
一向後右之外亀子之分何れも中井越後屋と名乗せ可申事、取立候節ハ同名ニ名乗らせ可申事
一後見之家永井越後屋と相改候、次男ゟハ本名ヲ名乗らせ可申事
一末々亀子々之内又ハ後見之者取立候儀為可有之、上中下三段割之子細全ノ壱番ニ記置候事
一亀子々之内家之為ニ相成徳儀有之者取立候ハヽ、上ノ割ニ入同名ヲ名乗らせ可申事
一向後親分持之者ハ役儀之徳ニ亀子壱人次ノ割へ入可遣事

一家々相続之子共或ハ病者勤も難成右之代りニ兄弟之内願申候時ハ念を入聞届可申候、其者追而相続之筋目へ譲候様ニ為致可申候、右之品宜仕候者は一家之手本ニ候条、其者之子壱人中ノ割を以同名ヲ名乗らせ取立遣し可申事、若又家々之惣領気随族ニ而名代願候ハヽ、実父ニ無頓着家督共ニ取上ケ、願之者に継かせ申様ニ時之親分正ク是ヲ可申付事

家々**榕**式之事

一惣領并本家六軒都合七軒是ヲ主人也

一取立同名之儀ハ一家也

一亀子之同名右同断

并本家筋ゟ出候中井ノ始

一中井家右順

一永井家右順

一本家七軒ハ取立同名亀子々同名ともニ親方と敬可申候、中井ハ主人同前ニ敬可申候、永井を始急度主人と敬可申事

一取立同苗亀子々同苗本家筋ゟ出候中井之始三方ハ諸事**榕**式同前、右三方へ永井ゟ之挨拶元服後ハ心安様影ニ而ハ殿、本家筋へ対シ右三方ヲ唱候時ハ殿、名代支配人ヲ始様付可致事

一三方ゟ永井へ之挨拶常と殿との間を以宜挨拶可致事

一本家筋ゟ出候中井ノ始ハ各別、其外之中井始終ともニ同前之**榕**式、此中井ゟ前三方へ之挨拶互ニ殿付、其内三方之方へ**慇**懃ニ致可申候、三方ゟハ同前之内少略可致事

一右中井と永井と**榕**式同前

一右中井へ名代支配人ハ軽キ様、中井ゟハ殿、外ハ是ニ順シテ主人ニ不紛様ニ程能挨拶可致事
一本家七軒ノ分ハ店ニ相勤候内、若輩たりとも急度主人と相心得可申事
一取立同苗亀子同名本家筋中井之始、此子共之分は永井ゟハ殿付、名代ゟ頭役目付迄ハ軽キ様、子共方ゟハ何れも殿付、平手代子共之儀ハ可為各別事
一取立之中井ノ始本家筋中井之分レ役頭目付迄ハ殿付互可致事、平手代子ともハ軽キ様付可致事、子ともノ方ゟハ殿なしノ慇懃ニ可致事
一永井惣領之子名代支配人ハ殿なし少宜、組頭以下之者不残殿付相互ニ可致候、平手代子とも之儀ハ殿之内少宜挨拶可致事、元服後ハ名代支配人共ニ同前ニ挨拶諸事夫ゟ以下之者ハ無役たりとも組頭同前に敬可申事、亀子々之儀ハ子共頭之**格**を以程能挨拶可致事

（表紙）

「清五　後見之者式法」

後見之者共取立式法

此度各儀我々同前ニ家督割永代申付候儀、元祖任願只今迄之兄弟いつ迄も不相替一致ニ被致度之旨、依之先達而一家之内取立之者有之候へとも、及末々ニ候時ハ一家之内ニも縁ニ引レ濃薄キ之差別有之故自然と依怙有之故夫ゟ乱一致ニ相続難成、数年相考各大切成家督ニ入取立申者也、此志ヲ不違一家継目或ハ大役相究候族諸事如前記、一ツハ筋目又ハ一家繁昌之利私為無之序ニ記之者也
一後見中永井越後屋と相改申付候条、仲間同名ニ名乗可申事

一各子共何人出生致候共惣領壱人永井越後やと名乗らせ、外ハ先祖之本苗ヲ名乗せ可申事
一繁昌ニ付店及数ケ所勘定等諸事ともニ紛敷儀有之ニ付、此度本店両替店綿店三ツノ元店と健外之店ハ工面次第ニ家頭領并各相談之上支配内ニ相定候事
一藤右衛門善次郎宗助本店頭役、向後通り名ニ相究候事
一新兵衛治兵衛両替店頭役、向後通り名ニ相究候事
一藤兵衛善兵衛綿太物店頭役、向後通り名ニ相究候事
一各家督役儀共ニ実子たりとも功無之者ニ直譲堅不成家法也
一実子親同前ニ候時ハ論不及家督役儀共ニ譲可申事
一継目或ハ幼少器量無之時ハ、店之内ニ而我ニ不劣者を名跡ニいたし、家督役儀共ニ譲可申候、娘有之ハ年下年上不都合ニ候共妾合可申事
一名跡継目ニ致候時ハ各々割ニ入候銀高不残相渡シ、名代ニ而取立置候支配内之店へ程能一分も宜惣用も立候程ニ元金入其店之割実子ニ取せ可申候大分ニ而名前之店へ入候へハ割を取候者各別不足ニ見へ候時ハ、銀子ニ而両替店へ預り遣し可申候、右利足之定別紙ニ記申候、如此仕置候上ハ子孫器量不器量ともに悪事之外ハ惣而相続之利也
一各遣賄料切符帳ニ申渡候事、然上ハ只今迄之各家督之分は立合之勘定ニ而目録此方へ差出シ可被申事
一向後大元之害ニ不成宜キ家督之店取立申様ニ申付候、此儀各名跡ニ譲候後実子又ハ店々繁昌ニ付忠功之者大勢為取立名前ニ而店ヲ預ケ候条、相続之後ハ人々ニ割取せ候様之仕方申付候事
一各賄料若不足或ハ不時分ケ立候儀ハ、名前之店ニ而分ヲ立候様に勘定聞可申事
一各儀居屋敷京江戸大坂共ニ何時振替可申も知レ不申候役屋敷と相心得、町々譲状出候刻も後日紛不申候様に急度相心

得可申事

一各役儀差免名跡へ相渡候後、他人ニ候共実親同前ニ相心得実子之儀ハ弟と心得先祖ニ代りニ宜おい立候様に忠孝之二ツ不違様ニ相心得可申事

一各役儀差免シ役屋敷取上ケ候節ハ、相応之屋敷求遣し可申事

一若年主人ニ成諸事不功たりとも不令軽、只今迄之通宜相続致様ニ各専要ニ相心得可申事

一店々手代相続之品各無依怙数年旧功之品夫々能正シテ程能可申付事

一各大切成役儀相勤候内ハ、一分之事耳ニ而家之儀疎略ニ無之様ニ此儀可為専要事

一各大役相勤候内ハ、家来出入之者迄敬申ニ付、音信等之儀ニ付私欲かましく過分之儀堅相慎可申事

一各同役互変ノ心なくむつましからすして大家之相続必災出来、此儀忠ノ第一と人之常独を慎可申事

一各儀家之鏡繁昌ニ随テ我不知高振もの也、分ケテ妾子ハ猶更無弁者也、又家へ対シ何方ゟ願之族有之者ハ、内証ゟ取入候事不珍常ニ此利妾共へ急度可申渡事

一同役中不和成族も多ハ妾方ゟ出ルもの也、分テ此利可申渡事

一各又手代之儀自然と威ヲ仮直手代ニ慮外有之ものニ候、急度可被申渡事

一各手代之内宜者或ハ直手代ニ取上ケ候共、重キ役申付候者は各別たるニより、直手代同前ニ本家七軒へ之礼儀挨拶等も致遣シ可申候、第一所々店之為と存故各差図次第ニ可致候、此等之訳ともニ急度可被申付事

一名前之店宜者仕付相続之仕方各仲間中立会談合之上、名前之者ゟ可被申渡事

一各へ預ケ置候店之内三年之内其利を正シ悪敷ハ止宜ハ増如斯正吟味之上ニ取立候儀は、何ケ所ニ而も聞届可申候、此利ニ違時ハ各ヲ始下ハ猶更頓着曽而不致候事

一各仲間分テ器量勝たる者有之ハ、其徳ヲ可敬事ヲ学ハ先其心ヲ可学、然上ハ少々劣たるとも筋合宜故終ニハ同前たり、多ハ心ヲ外ニして上部ヲ学もの也、是ハ似せ者と言天地ノ違也、又天下御仕置或ハ親ニ孝ヲ尽シ世ノ為ニ相成ものを御褒美是又善ニ元付サン為也、惣而始而学時ハ似せルとも修行とも言各筋合宜志真ノ一ツを発と可知也

一各役儀之内諸事仕置等不背神文取之可申事

一名前之店預り証文取之可申事

一各家之儀妾子ヲ始諸親類少も不差構、何迄も此方差図次第之一札妾子連判之証文取之可申事

一各惣領之外亀子之子共店へ始而差出候節親子之一札取之、其上ならてハ家業入不申付家法末々不違様に相心得可申事

一各仲間へも妾方仕置世ノ常ニ不申付候而ハ末ニ災可有之候、一家家法之通仲間一致ニ法度書立判形一致取可被申事

（表紙）

「清六　夫々法度之式目

家納様之次第　」

夫々法度之式目

一惣領家へ申渡シ候ケ条之事

一御公儀様御法度之品々并一銭之諸勝負博奕等之事

一親ニ不孝ニシテ程ヲ不知おこりヲ極メ万任我意事

一此度立置候一家并後見之者家之為ヲ存異見申儀承引無之族之事

右之内一ケ条ニ而も相背不用之時ハ先祖不孝第一自然と一家共ニ滅亡ス、依之惣領たり共或ハ引屈又ハ押込メ候へ而

先祖之道利不違様ニ宜ヲ立テ家ヲ相続可致之者也

一惣領之家ハ各別たるニゟ、右三ケ条之外ハ急度敬代違ニハ壱番ニ親分持可申事

一本家六軒へ申渡シ候前書之通三ケ条為相背時ハ、惣領家引屈成ハ押込、或ハ兄弟之内宜者ヲ取替候歟、軽重ニ依テ一段重ク可申付事

一右三ケ条不背候共、全家業ニ麁略成者ハ隠居引屈其時之品ニ可申付事

一取立之家々へ申渡候前書三ケ条相背族於有之は、家督之者ヲ取上兄弟ニ継かせ可申候、兄弟無之候ハヽ一家内ゟ名跡ヲ立可申事

一右三ケ条不背候共、全家業ニ麁略成者惣躰人柄不宜者と惣用之目掛り候者ハ引屈為致可申事

一本家七軒ヲ始取立同名中井始常ノ中井、何れも店へ子とも始而家業入之時割家督無之者ハ、親々ゟ末々其子家之妨ニ不相成ため一札ヲ取、其上ならてハ店へ遣し不申家法也

一諸親類并知音親元身代宜其子家業見習せノため、頼申節一切預り不申家法也

一諸親類知音取立ノため、其子手代ニ召吏候儀ハ可為各別候、此儀共ニ末々妨ニ不成利ヲ考其上ニ而引取可申事

一永井之子共惣領之外店へ出候節、是も一家同前之通手形取之、其上ニ而遣し可申事

一時之親分之儀心入替万任我意私多おこりを究時ハ、頭領を始一家并後見立会急度隠居為致申筈、其節為不及論メ記之、夫ゟ以下之者記不及為同前家法第一之儀急度相心得可申事

家納様之次第

一相続人撰之第一ノ可為大根

一第二相続人並
一第三後見役之事
一名代役之事
一支配人之重壱人之事
一其外支配人組頭役迄之事
右之役人常能𠮟テ可究之、都合不宜時ハ諸事不十分、分ル時ハ如此集時ハ相続人壱人是ヲ専要トス、其意縁ハ上壱人勝タル時ハ相続人並後見同気相求之利ニ而、我不劣者を𠮟故夫ゟ以下之者両役ゟ右志を以取立、段々と下知ヲ成ス、此利ヲ弁テ可知之、又上壱人違時ハ右之裏屋弥ノかうはいノことく上ニ而三寸下ル時ハ下ニ而一丈弐丈厚大ノ違、此旨能々相心得可申事
一店々家督末々何ケ所出来取立候共一切ニ建、不宜してハ家徳ニ不相成、発たん之善悪ニ而末々迄之店風儀善悪有之候間、此利前ニ知テ能相心得可申事
一店々所々用事無之候共、頭領ヲ始何れも大役人共ゟ所々之支配人へ家業たるミ無之様ニ状通とたへ申間敷事
一手代取立店々割之外銀百枚以上取せ候者ハ、当座渡シ三ケ一ヲ限二三年も右之元手ニ而家業相続之後相渡シ、夫迄ハ支配内之店へ利ヲ加預り遣し可申候、右之仕方ニ而ハ軽キ末之手代も有増ハ悉立身致もの也、家之威光繁昌之余慶也、又其者跡方もなく失時ハ外聞も悪敷仁ノ志も薄候条、此度右之法式相究候事
一一家後見迄五年一度申合勘略可致事
一勘略之年ハ諸事之奉加何方之居宅借シ家たりとも作事一切仕間敷事、其内手代有付元金之儀ハ可為各別事、先ハ是ともニ其年壱年ハ相延可申事

一本家七軒五年之内壱年ハ惣勘略、残テ四年之内壱年ハ一分之勘略、年弐人ツヽ之積此年ハ諸色外入用其外音信振舞等免可申候、此**格**を以取立同名麁子同名中井永井共ニ同前ニ佐法相心得可申候、惣而繁昌ニ随我不知おのつから諸事結講ニ相成おこるものニ候故、此儀為令□二ツ之法ヲ立置候、永々急度相守可申事

一惣領之家ハ各別其外之屋敷何れも役屋敷と可存候、為家業何時入替可申も知レ不申候、時之親分并相続人可申渡事

一居屋敷之儀重立候普請品ニ6聞届可申候間、時之親分并相続人迄願を出し可申候、一分之心ニ而ハ一切成不申候、其外少々之普請或破損是ハ一分之内ニ而可致事

一店々所々之手代不残**懇恳**之掛悉功次第ニ宜相続之利、常ニ相心得可申事、此心付無之時ハおのつから店衰微也

一所々手代大勢召吏候内、病者成ものも有之候故、夫ともニ相続致候様に支配内へいたわり候様ニ常々可申渡事

一能或ハ芝居人々之家へ物数寄之庭いか程宜儀有之候へ而も、見物無之候而ハはり合なくおのつから悪敷成候事、増而人々之家業上タル者折々ハ心ヲ通シ見物同前之心無之候へ而ハ、惣手代之はり合ぬけ何れも相続不宜、上タル者此志ヲ専要ニ心得可申事

（裏表紙）

「一ノ二　　」

（表紙）

「清ノ七　服忌ノ次第
精進ノ事　」

服忌之次第

一親分死後子分ノ者　忌実父ノ通五十日　服半減六月半

一右ノ妾死後子分之者　忌服共ニ母方伯母ノ通

一兄弟分ハ　忌服共ニ実兄弟半減、相互可受之也

一伯父分之者ハ　忌服共ニ二十日

一右之妾ハ　慎七日

一親分ノ親ハ　実ヲ正シ其通可受之、改テ服忌なし

一末々ノ慎此格を以相慎可申事、実父ヲ始兄弟伯父甥大祖父従弟何れも実ノ儀ハ不及記事

一家差合之砌店々風簾下ケ当分遠慮之次第

一親分持候惣領家之者ハ元祖之通遠慮　七日

但シ妾ハ　五日

一若輩たり共惣領家家督相続之者ハ　遠慮　五日

但シ妾ハ　三日

一本家筋親分持候者　六日

但シ親分不持候共徳有之者ハ　五日

又其名代ノ店ハ　七日
右妾ハ　三日
一本家筋家督相続之者ハ　三日
但シ名代店ハ　七日
妾ハ　二日
一取立一家之内伯父分ニ順者ハ　三日
但シ取立ノ家迄之者ハ　二日
名代店ハ　五日
右ノ妾ハ　一日
名代ノ店ハ　二日
一後見之者ハ其支配下ノ店計　一日
但シ名代之店ハ　三日
右妾ハ名代計　一日
外ニ遠慮なし
一末々一家麁子々遠慮不致候へ而難成品は此**格**式を以程能可相心得事

店々精進之次第

一惣領家親分持候者ハ毎月銘日店々共ニ惣精進、当分ノ精進ハ元祖之通　五十日

右妾ハ毎月右同断当分之精進　三七日

一惣領家家督相続之者ハ毎月ノ精進、店々惣精進当分之儀ハ　三十五日

右妾ハ性月ハ惣精進、毎月ハ朝計

但シ子なきハ当分計、以後ハ無用

又当分之精進十四日、子なきハ七日

一本家筋親分之者其外徳儀有之者ハ毎月店々惣精進当分ノ精進

親分持候者相続人　三十五日

徳儀有之者ハ　三七日

名代ノ店ハ何れも　五十日

右妾ハ性月計店々惣精進

毎月ハ朝計

但シ名代之店ハ毎月朝夕共

一本家筋家督相続之者名代之店ハ毎月精進、外ハ性月計又毎月ノ名日店々支配人計惣代ニ朝計

当分之精進ハ　十五日

名代ノ店ハ　三十五日

右妾ハ名代店ハ毎月精進外ハ性月計

但シ子なきハ無用

当分之精進　七日

名代ノ店ハ　十四日
子なきハ各半分
一取立家伯父分ノ者　名代ノ店ハ毎月
但シ惣精進
外店ハ　毎月ハ朝計支配弐人惣代
性月ハ惣精進
当分ノ精進（名代　三七日
外　七日）
右ノ妾　名代ノ店毎月朝精進性月ハ朝夕、外店ハ精進なし
当分之精進　名代七日
外三日
一取立ノ家相続之者当分精進　名代店十四日
外店三日
但シ名代ノ店ハ毎月精進
外ハ性月計
右妾ハ　当分精進　名代店五日
外一日
但シ名代店毎月ハ支配名代ニ朝計精進性月ハ惣精進、外店ハ精進なし

但シ子なきハ名代店共ニ当分之精進半分致外ハなし

一後見之者共　名代店当分　七日

毎月ハ惣精進

支配方之店ハ当分三日、性月ハ惣精進

毎月ハ朝計店重たる者惣代ニ精進ニ可致候、外店ハ当分一日外ハなし

右妾ハ何れも頓着無之事すうき次第ニ可致事

一向後店々名代支配人組頭役頭目付大役相勤候者、店ニ而病死之時末々迄其功ニ応シ、弔精進ノ格式店々ニ所々共ニ式法立置可申事

但シ一端仕付候者ハ不及其儀事

（表紙）

「　家々相続之次第

全弐　親分頭領之定

一家子孫家業入相続之事」

家格式始り之次第

元祖宗寿ゟ家二代　三代目八郎次郎

一惣領家之始り　宗竺　四代目元之助

但シ実子元之助へ三代目ヲ直ニ譲申筈、八郎次郎儀忠功之者其上子分たるニゟ一先譲三代目トス、依之元之助ゟハ親

兄ヲ兼敬可申候、又八郎次郎ハ此志ヲ不忘、宗竺ニ代り元之助相続之後見宜可致候、八郎次郎子ハ筋目六男之家ヲ継かせ可申事

一本家筋次男ノ始八郎右衛門　二代目助八
　　三代目庄之助

但シ実子庄之助へ二代目ヲ直ニ譲申筈、助八志宜其上子分たるニ付一先二代目トス、依之庄之助ハ親兄ヲ兼敬可申候、又助八ハ此志ヲ不忘八郎右衛門代りニ庄之助相続之後見宜可致候、助八子ハ筋目七男之家ヲ継かせ可申事

一本家筋三男ノ始三郎助　跡目四郎次郎

但シ子細なし

一同四男治郎右衛門　跡目万之助

但シ無子細

一同五男源右衛門　跡目幾之助

但子細なし

一同六男　跡目

一本家筋始七男　跡目

右合七軒之内　宗竺方ヲ惣領家
　　残り六家本家筋

一則右衛門

一治左衛門

一吉郎右衛門

右三軒ハ取立之家也、但シ一家也

家跡目相続之次第

一惣領家并本家都合七軒、若其家々ニ跡目無之時ハ父方之甥ニ継かせ可申候

但シ父方とゆふは男兄弟之子ノ事也

一甥無之時ハ惣領家并次男を始本家筋七軒之内順々を以宜相続之可致事

一惣領本家筋共ニ女子計之時ハ、年下年上年来不相応ニ候共、右七軒之内有増ハ順能妾合相続可致事

一惣領家本家筋六軒共ニ縦実子ノ娘たりとも他家へ遣シ出生之子は種違候ニ付、何れの家ともニ名跡ニハ堅仕間敷事

一惣領家本家筋七軒之内ニ右之仕方ニ而も跡目無之節ハ、只今迄之取立三軒と又末々取立之家も可有之候、右之内ニ而筋目を正シ宜相続之可致者也

親分之定

一惣領家并本家都合七軒代違徳儀次第親ニ敬可申事

一惣領家ハ各別たるニ付、親分不持候とも又ハ若輩たりとも惣領之筋目相立候様ニ、先祖之祭事諸事**格**式共ニ親分之外ハ何れ之家ゟも急度敬可申事

一惣領家たりとも時之親分へハ実父之通一番ニ敬不申候而ハ末々家法立不申候、此旨急度相心得可申事

一親分之儀徳儀常たりとも直越ニして万不任我意無事時ハ順を以継可申事、縦徳儀勝タリとも私多任我意時ハ一家難儀、依之次ヲ立上ヲ隠居為致可申事

一七軒之家代違、縦親分不持候とも老分之者へハ家々若年相続之子共よりハ実ノ伯父と心得可申事

一取立之家代違老分之者之内、徳儀有之家之為ニ相成候者ハ、たとへ本家七軒たりとも若年ゟハ徳ヲ重シ伯父同前ニ心得可申候、徳常成時ハたとへいか程老分たりとも若年ゟ敬申事無之候、家之格式之通ニ相心得可申事

一時之親分ハ惣一家不残大隠居と唱敬可申候、依之諸事頭領次第ニ下知為致可申事

一家夫々之家相続之子時之親分へ相渡シ候後実父佐法之事

一家業不残宜下知相勤候者ハ　頭領役

一家業之内大役宜相勤候者ハ　頭領並

一大役其外勝たる役儀不勤内ハ　評定人

右三段之品時之親分ゟ親々へ可申渡事

一宗竺親分之始也、家々相続之子とも実父と心得敬可申事

一家々之子共元祖之通兄弟分ニ候故、諸事偏なく順々ニ実兄弟之ことくニ可致事

一八郎右衛門、三郎助、治郎右衛門、八郎次郎、助八迄ハ元祖之てきてんたるニゟ親分之儀ハ順能継可申事、頭領役之儀惣一家之為ニ候間、時之利ニ叶たる者を一家并後見之者立合候上相究下知ヲ請可申事

一家子孫家業入相続之事

一十三歳ノ春夏秋ヲ限十五迄凡三年之間京都室町本店ニ差置、自身風呂敷包為持染屋諸職人不残廻り、品々錠錬為致算用其外仕入方之次第見習せ可申事

一十五ノ春夏秋を限一先江戸へ下シ、本店并綿店両所之内ニ凡二十迄紗弥ヲへ、物事錠錬為致可申事

一初登り之儀ハ江戸当役之者并年寄共差図次第ニ可致事

本家之分ハ初登二三年之内　亀子并後見ノ嫡子三四年之内　右之通心得可申事

一子共初登りハ不及申於江戸聢と心安キ一方も不相勤、只江戸詰之分ニ而登り候時節、親々ニ差置馳走過候事大切成折柄毒がい致候と同前、向後店ニ差置江戸勤同前ニ無油断可申渡候、折節之休足又親元へ呼候儀有之候ハヽ、相勤候店へ急度断、江戸ニ差置候と相心得可申事

一縦於江戸一方相勤候共無妾之内ハ勤方右同前、其内馳走之品少シ宜可致事

一二十ゟハ江戸表先心安キ店ゟ支配人と一所ニ一方ヲ渡シ、下知為致見可申事

一一ケ所之働次第段々ニ重キ所へ入替、役替為致下知仕様ニ各仕入可申事

一二十五ゟ凡二三年京都本店ニひしと相詰、買方仕入方悉錠錬為致可申事

一二十七八九迄之内壱ケ年京都新町両替店ニ差置、上方之金廻シ一切之儀錠錬為致可申事

一二十九壱年大坂ニ相詰、金廻し之品土地之風儀悉錠錬并呉服太物店共ニ此内ニ心掛ケ、有増錠錬可致事

一三十ニして江戸両替店ニ五七年も相勤、勿論彼地金銀之わしり之次第諸事徳意商之仕方并屋敷方一切之勤方、此節錠錬可致事

一三十六七ゟ御用所ヲ請取御公用相勤、并江戸一切店々此節下知致候様ニ可相心得事

一四十三四五迄ニ江戸表ヲ願京都へ引越、五十余迄京都勿論江戸大坂所々共ニ乍居下知致候様ニ、段々之修行如斯可致候、此上ならてハ大功とハ難唱者也

（表紙）

「一札証文之下書」

惣領家本家麁子同名中井之始家業入之事取立同名之嫡子

一店ニ而相勤候内諸事家法之通相守可申事
一各店ニ而勤方子共立元服後中年迄夫々家法通聞せ候通相心得可申事
一各親兄弟之威権不申諸事店ニ而相勤候内ハ、其店々之支配人不背下知手代同前ニ相勤可申事
一各家業之はまり能、数年宜相勤家ニ対シ忠有之者ハ、上之割を以家督ニ入同名ヲ名乗せ、一家ニ取立可申事
一各店勤悪敷家法ニ違或ハ不行跡、右之族之者ハ親々江無断追払申付家法、此旨兼而相心得可申事
一各儀ハ各別たるニゟ店々大切成儀も不残見せ学文致させ候上ハ、たとへ店之割ヲ不遣候とても一致同前、依之各成人之後手前家業妨為無之ニ其子細別紙ニ建置通聞せ候通何事ニ不寄此方ゟ差図いつ迄も背申事堅不成家法也、若相背之族ハ親々ゟ何程之譲金取候共、親々ニ無断一家ゟ取上ケ申家法互申合取立候事
一麁子たりとも其親之心ニより家之かふヲ□(へカ)し家徳ニ入候者ハ可為各別事
右之条々一々承届候、少も相背かせ申間敷候、若於相背ハ相互ニ申合候通、此方へ無断各御了簡いか様共可被成候、違乱為無之我等証人判形致遣候、為後日仍如件

本家誰
家業入
子誰

年号月日

本家御仲間中

右口書ニシテ帳一冊

中井ノ分家業入ニ付申渡条々

一店ニ而相勤候内諸事家法之通可相守事
一其方共店ニ而勤方子共立元服後中年迄夫々家法通聞せ候通相心得可申事
一其方共親兄弟之威ヲかり不申、諸事店ニ而相勤候内ハ、其店々支配人之不背下知手代同前ニ相勤可申事
一其方共家業之はまり能数年宜相勤、家ニ対シ忠有之者ハ、上ノ割を以家徳ニ入、同名を名乗らせ一家ニ取立可申事
一其方共店勤悪敷家法ニ違或ハ不行跡、右之族之者ハ親々へ無断追払申付家法、此旨兼而相心得可申事
一其方共儀為各別ニ〆店々大切成儀も不残見せ学文致させ候上ハ、たとへ店之割ヲ不遣候とても一致同前、依之成人之後手前家業妨為無之、其子細別紙ニ立置誦聞せ候通、何事ニ不寄此方〆差図何れも背申事堅不成家法也、若相背之族ハ親々〆何程之譲金取候とも、親々ニ無断一家〆取上ケ申家法互ニ申合候事
右之条々一々承届申候、少も相背かせ申間敷候、若一ケ条ニ而も御家法ニ相背候ハヽ、私共へ無御断如何様共御下知次第ニ可被為仰付候、為後日証人連判仍如件

証人親か兄弟　　誰
家業入ノ子　　誰
年号月日

御本家衆中様

永井惣領之子共并亀子家業入ニ付申渡条々

一其方共親之忠功勝タル故、大切成割ヲ遣シ大役申付候、何れも其子共之儀ニ候へハ役儀家督共ニ筋目之通惣領ニ取せ

申度ものニ候へ共、大切成役儀功大躰ニ而ハ中々譲申事難成家法、然共親之忠功為勝ニゟ大躰ニ候へハ、奉公人之手形取之申筈ニ候へ共、譜代之印ニ其儀ヲ除キ、亀子々同前ニ書付ニ而申渡候、何とそ右者を以親之家督役目共ニ請取候様ニ二葉ゟ此心得可致事

一店ニ相勤候内召吏候**格**式子共立中年元服後夫々式法立置候通、急度相心得可申事

一何年ニ而も店ニ相勤候内、諸事家法之通別而相守可申事

一支配人ハ不申及重キ役人差図之通、一切相背申間敷事

一其方勤方宜家業はまり能家へ対シ一品ニ而も宜功ヲ尽ス上ハ、若輩たりとも親のことく取立遣シ可申事、又店勤方悪敷家法ニ背或ハ不行跡之族ハ親ニ無断追払申付家法也、此旨急度相心得可申事

一店ニ相勤候内少ニ而も親ノ威ヲかり店子共以下ニ至迄かすめ不申謙候様ニ心掛可申事

一其方共譜代之儀ニ候へハ、店々之内望申方へ遣し家内秘(カ)事不残教申ニ付、後日ニ家之妨不仕ため別紙ニ申聞ス式法之通相心得可申候、若背之族於有之ハ、親ゟ何程金銀譲家法遣し候共取上ケ申家法ニ相定候事

一亀子々へ申渡候惣領之儀ハ、親各別之者故家内之**格**式も宜申付候、亀子々之儀ハ別紙ニ記申通平手代と存、随分謙相勤可申候序ニ記通分ルニ不及事

一亀子たりとも家業ニはまり能忠功勝タル時ハ親のことく取立可申候、是外之者と違たる訳也、此儀大切ニ相心得可申事

右被仰渡候御式目一々奉承知候、若相背之族御座候ハヽ、拙者共へ被為聞ニ不及御家御佐法之通、急度被仰付可被下候、後日違乱申上間敷ため証人之連判差上申候仍如件

年号月日　　永井　誰

子　誰

御本家御主中様

一札

一室町薬師町私居屋敷ニ而上下商売名代ニ被仰付御預り申所紛無御座候

一右之御店御取立之趣旨ハ、私共御役儀御免之後忰家督役儀共ニ相勤候上ハ不及其儀、多ハ直譲仕候程之儀不相成と存、其節ニ至忰共家徳又御店段々御繁昌ニ付、私共支配内之御家来忠功之者多出来候時、不残相続彼是之思召ニ依テ御取立被遊候御儀御座候

一店々割或ハ十又ハ弐十三十と割ヲ定建半分ヲ忠功之者方へ遣シ、半分ハ御預りニ致追而忰家督ニ仕度節御願申、程能被仰付被下候様ニ仕度御事

右之通私御預り申所紛無御座候、後日妾子ヲ始諸親類違乱申上間敷ため一札証文差上ケ申所仍如件

年号月日　　室町薬師町上下店　誰

御本家主中様

一札

一私共儀此度御取立ニ付、御大切成割之家徳ニ御差加被遊冥加至極存奉候、其上家屋敷ともニ結講ニ被為仰付、重々難有仕合奉存候

一私共御役儀直譲ニハ難仕、第一御家之為ニ御座候へハ、御店之内ニ而相応之者見立名跡ニ仕、家屋敷御役儀割家徳共ニ相渡シ、御家之御為宜下知仕様ニ可仕候、若又相応之一子も御座候ハヽ、御願可申上候

一私共儀御取立之上ハ御役儀御免之後も、子孫御譜代之儀いつ迄も御下知違背仕儀無御座候、末々ニ至妾子ヲ始諸親類ともニ一言違乱申上間敷ため、我々一紙連判仍如件

年号月日　　永井　　誰々

御本家誰々様

一札

一我々儀元祖宗寿様并各様御相談之上兄弟分之烈へ御加へ被遊大切成割之家徳ヲ被下、子孫迄一家ニ御差加へ重々忝奉存候、且又子孫ニ至家式法之通急度可申付候、若家徳配等之義其外各別ニ罷成度旨申族有之候ハヽ、如何様共家式法之通可被仰付候、御厚恩之我々子孫ニ至迄如何様之義ニ而も御下知背せ申ましきため、一札証文仍如件

年号月日　　一家　　誰々

本家誰々様

一札

一私養父治左衛門儀家業度々仕もつれ、先年も御合力ニ而一先相続仕候へとも、又何ケ年以前ゟひしと手詰り、京江戸所々并各様私同名都合千弐百〆目、其内五百〆目各様ゟかり金如此有之処ニ一切之有物高弐百〆目ニ不足弐歩ニも廻り不申所々大勢へ損ヲ掛、別而各様大分之御損諸親類ひしと潰レ、一分ハ不及申年来召吏候大勢之手代迄難儀ニ及候

処、各様御了簡ニ而右潰レ店并所々借金迄御引取被下、段々之御せわ故何方へも損之掛不申、其上治左衛門跡手代迄宜相続御厚恩可申上様も無御座仕合奉存御事

一私儀小野田名目之名代ニ被仰付、右之店私ニ御預ケ被成候処紛無御座候、然上ハ何時名代御改被遊候共毛頭構申者無御座候、私儀甥之筋目を思召各様御末子ニ御順シ御大切之割家徳被下、其上子孫迄一家ニ御取立被下候儀重々忝仕合ニ奉存候、然上ハ子孫いつ迄も御下知少も違背仕間敷候、若又右之店私名代故子孫ニ至家来一家ニ而も、一分之存念又ハ各別之配等之儀申掛御家法ニ相背候ハヽ、いか様とも可被仰付候、其時一言申分為仕申間敷ため、子孫永々之印ニ我等一札之証文仍如件

年号月日　　小野田治左衛門

御本家

誰々様

一家麁子々并永井子共家法之定

一十三之春ゟ十五迄凡三年之間京都本店へ差出シ、惣手代並ニ染屋諸職人へ不残廻り、此内ニ錠錬致、算用等ハ不及申仕入方見習可申事

一十五之春秋ヲ限江戸ヲ始所々当役之差次第差下シ相勤させ可申事

一初登り之儀ハ三四年之内其所々当役之差図を以首尾能相勤候ハヽ、褒美ニ登せ可申候、勤柄ニゟ十年も延申事ニ候条、兼而其覚悟可致事

一初登り中登りともニ無妾之内ハ店ニ常詰、親元へハ役人へ相断罷出可申候、少之休足ハ各別是も三十日ヲ限店へ参可

申事

一其方共儀各別之者ニ候故、早知恵付候様ニ切々役替可申付候間満足可致事

一其方共家業之はまり能、一方之役ニも立候時ハ、各別ニ佐法宜可申付候条、晴ケ敷儀能々相心得可申事

一其方とも一分として京江戸大坂三ケ所ニ而、手前へ妨ニ成候様成呉服店并絹布太物綿、右之店取立申儀堅不成家法也

一右三ケ所之内たりとも遠所又ハ店之名目ヲ預、其外仕方ニ〆時之頭領并頭役之者共聞届候上ハ可為各別事

一右三ケ所之内たりとも手前へ障成不申商売ハ不苦候、両替質之儀ハ手前ニ有之候へ而も、何間何方へ出し候而も構不申候勝手と心得可申事

一三ケ国之外ハ何商売ニ而も勝手次第、宜儀有之ハ一家相談之上取立可申候、乍去一分立取立候〆ハ或ハ三人五人仲間ニ致、一色ヲ三色五色ニ致取立候時ハ、一方悪敷店有之候へ而も又其内宜店も有之ものニ候へハ、此等之仕方大根ニ覚悟可致事

一其方共店取立候とも相続之利を慥ニ不見届内ハ、親〆之譲金預り候ともむさと渡し不申、段々ニ見届次第相渡可申家法也

後

一宜儀見立候時不残之預り金相渡シ候へハ、一分之様ニ相成候故、其節共ニ此方下知ニ任申筈、いつ迄も此礼儀違候時ハ家徳共ニ取上ケ可申候、末々不及論ため記之者也

一身代ニ不応買置売置一切諸色共ニ致申間敷事

前

一慥成所ニ候共元手一所ニかし金仕間敷候、大名貸シ尚更一分之心ニ而一切致申間敷候事